

## 2025年10月ハイパーカレンダーレポート

8月に九州電力から出向派遣としてハイパーネットワーク社会研究所の一員となり、ハイパー研が取り組む事業内容や産学官連携の意義について理解を深めることができた。私はこれまで、電力保安、ドローン、データセンターといった分野で幅広い業務に携わってきたが、産学官を繋ぐ役割に取り組むことは初めてであり、大きな挑戦の機会を得ていると感じている。

### 現在の業務について

私は、ハイパー研の主要業務の一つである「[おおいたAIテクノロジーセンター](#)」で事務局の業務に従事している。事務局では、大分県内企業からのAI活用相談対応、県内外企業との連携、イベント運営など、センター運営全般に携わっている。

また、AIビジネス創出においては、プロジェクトマネージャーとしてAIビジネスプロデューサーと連携し、大分県内の企業が抱えている課題をヒアリングし、AI導入に向けた検証、伴走支援を行い、省力化や効率化の実現を支援している。

一方で、日々の業務を通じて専門性を高めていく必要があると強く感じている。この3か月間は企業訪問や課題のヒアリングが中心となり、まだ具体的なビジネス創出には至っていない。短期間で成果を求めるものではないと理解しつつも、少なからず焦りが生じているのが正直なところである。まずは、一つひとつの業務を確実に完遂し、成果につなげたい。そのためにも、先輩方から助言をいただきながら、「デジタルヒューマン」や「AIエージェント」といった最新技術にも積極的に触れ、個人としての専門性の向上に努めたい。

### 韓国出張での経験について

10月末に韓国・麗水市で開催された「日韓海峡圏研究機関協議会」に参加した。本協議会は、日韓双方の研究機関が集まり、経済・社会・環境など、多岐にわたる課題について情報交換や共同研究を行う場となっている。日本や韓国から参加した研究機関との交流も初めてだったため、自らも積極的にコミュニケーションを取るように意識した。また、初めて訪れた麗水市では、地域経済の変遷と現状の課題を理解でき、自身にとっても貴重な経験であった。

韓国に滞在する中で、日本との食文化の違いに強い印象を受けた。日本では食事を残すことは好ましくないとされる一方、韓国では副菜が多く、残すことが一般的であることや、刺身をコチジャンとともにサラダのように食べるなど、これまで経験したことのない食文化に触れることができた。

最終日には順天湾湿地を視察し、地域住民と行政が協働しながら自然環境と観光を両立させる取り組みについて学んだ。地域づくりにおいて住民参加型の合意形成が不可欠であることを改めて実感した。また、現地では言語の壁の大きさも痛感した。ハイパー研共同研究員の姜氏の通訳に支えられながらも、英語や韓国語による直接的なコミュニケーションの必要性を強く感じたため、今後は語学力の向上にも取り組む必要があると感じた。

(文責: 恒吉 優次)